

第57回卒業証書授与式 在校生送辞

空を飛び交う小鳥のさえすり。暖かい春の光。今にも開こうとしている校庭の桜のつぼみ。そのすべてが、先輩方の旅立ちを祝っているかのようです。

そんな今日のよき日に、垂水東中学校を巣立っていかれる57回生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

3年前の4月、みなさんは新しい制服に身を包み、この垂水東中学校の門をくぐられました。今、みなさんはこの3年間をどのように振り返っておられるでしょうか。3年という月日は早いもので、あっという間に感じられたことでしょうか。多くの先生方や友達との出会いの中で、貴重な体験をし、十人十色の思い出を築き上げてこられたことと思います。私たち在校生が、大きな不安を抱いて入学してきた時に、先輩方は私たちの先頭に立って引っ張ってくださいました。そんな先輩方の姿に、緊張が解けていったのを覚えています。先輩方の背中には本当に大きくて、頼もしく感じられました。

部活動においても、入部したばかりで右も左も分からない私たち、優しく声をかけてくださいました。ご迷惑をおかけしたこともありましたが、最後まで丁寧に指導くださったことを今でも感謝しています。ひたむきに練習に励まれていた先輩方は本当に憧れの存在です。その姿を私たち在校生も見習い、後輩に伝えていきます。

夏の暑い陽射しの中で行われた体育大会。男子は、昨年日本で開催されたラグビーワールドカップで有名になった「HAKA」を披露されました。先輩方の鬼気迫る演技に、思わず圧倒され、男子が一丸となった姿からは「one team」の精神を感じました。また、女子がマスゲームで披露した「This is me」。先輩方が試行錯誤を繰り返して創り上げたこのダンスは、57回生にしか表現できない美しさやしなやかさが存分に表れていて、見ている人たちに爽やかな感動を与えました。

そして、文化発表会で聴いた学年合唱『あなたへ～旅立ちに寄せるメッセージ～』息を吸う、その歌い出しの瞬間から、一人ひとりの表情が私たちとは明らかに違っていました。思えば、合唱練習が始まった頃から、先輩方の美しい歌声が、いつも2階のフロアから響いていました。日頃から積み重ねてきた、そんな努力が、人を感動させ、すばらしい合唱を創り上げていくのだと教えていただきました。

この曲は聴けば聴くほど、その歌詞に込められた意味を深く考えさせられます。先輩方が、この先、人生という名の迷路に迷い込むようなことがあっても、決してくじけず、顔を上げて前を向いてほしいと思います。

さて、「挨拶の輪・笑顔の輪・繋がれ垂東」というスローガンの下で、みなさんが実行してこられた「よりよい垂水東への礎」は私たち在校生がしっかりと受け継いでいきます。

このような形で、先輩方と突然、別れなければならなくなったことは、本当に心から辛く、もっとゆっくり時間をかけて別れの余韻に浸りたかったという思いでいっぱいです。

今、みなさんは夢と希望を胸に抱いて、新しい世界に羽ばたこうとしています。これからの道のはりは今までは違うものだと思います。平坦な道のりばかりではなく、厳しい坂道も越えていかなくてはならないでしょう。しかし、みなさんには心強い仲間がいます。この3年間で培われた強い絆で結ばれた仲間がいます。その仲間という最大の味方を、心の支えにして、どうかその夢と希望を絶やすことなく、幸せな人生を歩まれますことを、在校生一同、心より願い、送辞といたします。

令和2年3月17日

神戸市立垂水東中学校 在校生代表

第57回卒業証書授与式 卒業生答辞

日差しが日ごとに柔らかくなり、桜の蕾も色づき始め、命の躍動する春の訪れを感じる季節となりました。そんな今日という佳き日に、僕たち57回生140名は卒業の日を迎えました

3年前、僕たちの入学式の日は雨でした。新品の制服を汚さないように気をつけて登校したことを今でも鮮明に覚えています。天気とは裏腹に僕の胸はこれからの学校生活への希望でいっぱいでした。

そんな中行われた宿泊教室。友達との会話もまだごちなかつた僕たちでしたが、集団行動やレクリエーションを行う中で友達との仲がぐっと深まり、一つの集団としての意識が芽生えました。

学校生活にも慣れ始めた2年生。後輩という存在ができたことで先輩としての自覚が生まれ、より強い責任感を持って行動しました。常に良い先輩であろうと努力することで57回生は更に成長することができました。

トライやる・ウィークでは、社会での常識、マナー、仕事の厳しさややりがいなどを学びました。5日間という短い期間でしたが、事業先の方々の御厚意のおかげで僕たちは貴重な体験をすることができました。

やがて先輩方が卒業し、僕たち57回生が最高学年となりました。3年生になると全てにおいて「最後」という言葉が付き、それまでに無かった緊張感を味わうことが多くありました。それでも僕たち57回生は重要な場面を迎えるたびに学年目標である「誰もが主役 理想を求める57回生 信義礼」という言葉に力をもらい、日々前向きに進んできました。

まず修学旅行。民泊体験では家族のように温かく迎えてくださった現地の方々と交流し、人の温もりを感じることができました。平和資料館では、特攻隊として散っていかれた方々の数えきれぬほどの写真や遺書を目の当たりにしました。改めて命の重み、生きていることの有り難さを深く感じ、これからも精一杯生きていこうと固く心に決めました。

次に体育大会。練習に一番時間を割いた組体操とマスゲームでは、3学年で力を合わせて励みました。本番前は成功させることができるのかという不安が大きかったですが、それでも仲間を信じ、気持ちを一つにして成功させました。垂東最後の組体操に相応しい演技になったと思います。また、マスゲームでは最後まで全力で演技する姿に大きな感動とパワーを貰いました。男女ともに成功を収めることができたのは信頼し合える仲間が居たからだと思います。仲間と乗り越えた体育大会は僕たちにとって最高の思い出になりました。

そして合唱コンクール、文化発表会。今年の合唱コンクールは、スローガンの「Sing of final 『あなたへ』届ける感謝の気持ち」を掲げて練習しました。スローガンにもあるように「届ける」ということを意識して、今までよりもレベルアップした合唱を目指しました。練習では互いにぶつかり合うこともありましたが、本番では団結しながらもそれぞれの想いも込め、全力で歌い切りました。会場から温かい拍手をもらった時の達成感は今も強く残っています。

こうして3年間を振り返ってみると数えきれないほどの思い出があります。楽しい思い出、辛い思い出、嬉しかった思い出、悔しかった思い出、全てが僕たちを成長させてくれました。そして今、身も心も大きくなり、卒業を迎えられるのは支えてくださったたくさんの方々のお蔭です。

3年間指導してくださった先生方。僕たちが失敗しても愛を持って叱り続けてくださいました。何度失敗しても正面から想いをぶつけ、僕たちに正しい道を示してくださいました。たくさん迷惑を掛けましたが、先生方のお蔭で人として大切なことに気づき、成長することができました。

また地域の皆様方は常に僕たちのことを見守ってくださいました。体育大会や文化発表会などにも足を運んでくださり、励ましの言葉をいただきました。他の地域行事でも親切にさせていただくなど本当に多方面からお世話になりました。僕たちの成長を温かく見守ってください、ありがとうございました。

在校生の皆さん。いつも僕たちを支えてくれてありがとう。皆さんにとって格好良い先輩になれたかどうかは分かりませんが、共に過ごした時間は最高の思い出です。明日からは皆さんが学校の顔となります。失敗することもあると思いますが、先生や仲間、家族と協力しながら乗り越えていってください。

そしていつも寄り添ってくれた家族。生意気な口を利いたり、無茶なことを言ったり、困らせてばかりでした。うまくいかないことが多くて八つ当たりをしてしまうこともありましたが、全てを受け止めてくれました。将来について真剣に話し合ってくれました。普段は言えないけれど言葉で言い表せないほど感謝しています。本当にありがとうございます。これからもよろしく願います。

最後に57回生の皆。いよいよ卒業です。最後に皆と過ごせる時間は短くなってしまったけれど、誇りと自信を持って、今この場所に皆と立っていることを心から嬉しく思います。正直皆と別れるのは辛くて仕方ありません。でも別れを惜しんでばかりでは前に進めません。僕たちはそれぞれの進路を力強く歩んでいかなければなりません。将来壁にぶつかって苦しく辛い時があるかもしれません。そんな時は共に垂東で過ごしたこの3年間を思い出しましょう。登下校や休み時間にふざけ合ったこと、叱られたこと、体育大会を成功させたこと、クラス一丸となって合唱をしたこと、辛い受験勉強を乗り越えたこと、そんな思い出がきっと背中を押してくれるはず。『あなたへ』の歌詞にあるように、悲しみ、憎しみ、そして信じ合える喜びを知った僕たちはどんな場所でも輝くことができるはず。僕は3年間、共に過ごしてきたこの仲間が大好きです。皆に出会えて本当に良かったです。ありがとう。

最後になりましたが、母校垂水東中学校の益々の発展と僕たちの未来が輝かしいものであることを祈って答辞といたします。